

1 令和7年度自己評価の実施

期間／令和8年2月12日～13日

実施人数／19名

2 集 計

a…十分わかる・十分できている

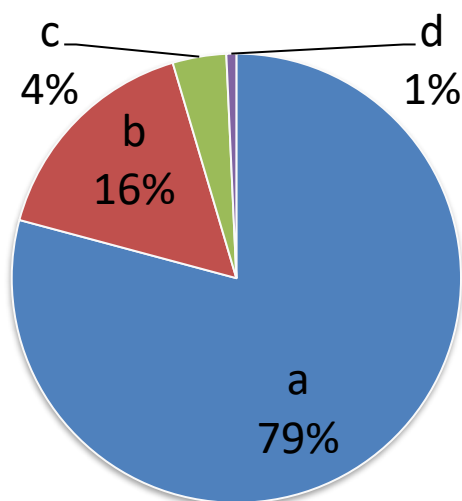
b…おおむねわかる・おおむねできている

c…あまりわからない・やや不十分

d…ほとんどわからない・改善を要する

評 価 項 目	a	b	c	d
(1) 保育理念	102	40	9	1
(2) 子どもの発達 (養護、乳児保育(健康、食事、人間関係、環境、言葉、表現、延長保育、障がい児保育))	1182	259	61	18
(3) 保護者に対する支援 (喜びの共有、保育内容の説明・個別支援、地域保育所機能の開放、関係機関との連携)	502	86	24	1
(4) 保育を支える組織的基盤 (健康安全の実施体制、保育計画と内容の自己評価、職員の資質向上)	430	70	14	
※数値は、評価項目を構成する複数の評価基準項目ごとにaからdまでの評価に該当する職員数の累計数である。	2216	455	108	20

3 評価の割合



4 評価結果と今後の課題(総評)

- 1 「十分理解している」、「理解している」とした回答割合が95%と昨年度とほぼ同様の結果だった。
- 2 ここ数年保育施設での不適切事案がマスコミに取り上げられ、その都度事案を共有してきたこと、研修や個人面談を通じて職員に適切な保育提供を求めてきたことが反映したものと思われる。
引き続きこうした取り組みを継続していく。
- 3 自由選択保育など子どもの自主性を促す保育を進めていくほか、異年齢の交流保育など子どもの発達援助に資する保育活動を進めて行く。

5 評価結果と今後の課題(項目別)

(1) 保育理念	保育理念の基本的設問1, 2, 3項目にc, d評価の方が一定数いた。 以下の内容は、各自しっかり把握しておく。例年低い評価の職員が一定数いる為改善が必要。 園内研修や職員会議の場を活用して、保育理念や人権尊重などの学びを深めていきたい。 設問1→児童福祉法第1条(児童は等しく生活を保障され愛護されなければならない) 設問2→児童福祉法第18条の4(保育士資格の法定化) 設問3→「児童は人として尊ばれる」、「児童は社会の一員として重んぜられる」、「児童はより良い環境の中で育てられる」(児童憲章の理念)
(2) 子どもの発達支援	1 人間関係:こどもが自分でできたという充実感を味わえる配慮やつまづき・けんかなどの経験が成長に必要で、適切に対応しているかの項目でc評価があった。充実感をえられる活動が自己肯定感を育むものであり、さらに創意工夫して保育活動を取り入れていく。つまづき・けんかなどの経験を通じてこどもはルールや人間関係を学んでいくので、そうしたことを理解できるようわかりやすく教えていく。 2 環境:自然現象の不思議さや生命の尊さについて一緒に調べたり、気づくようにしているかという項目の評価が低かった。難しい項目ではあるが、自然との関わりや生命尊重について、かみ砕いて少しでも伝えられようにしていく。 3 言葉:その場に適した言葉がけ、正しい言葉、声の大きさに配慮しているかの項目でc評価が数名いた。こどもが理解できるよう簡潔で短い言葉で話す(否定ではなく肯定形で「走らないよ」→「歩こうね」、子どもの目線に合わせて話す、感情的でなく事実を話す(なんでできないの)→(こうするとできるよ)、落ち着いた声で、子どもにきちんと届く声量で話すように指導していく。 4 障がい児保育:配慮を要する子どもが増加傾向にあることから、職員の障害児研修の受講を計画的に進めていく。
(3) 保護者に対する支援	1 「子どもの成長の喜びを共有」、「保育内容の説明・応答責任、個別支援」の各項目の多くがa評価。子どもの育つ姿を保護者と共有し、保育内容の説明・応答責任をきちんと果たすことは保護者の信頼感、安心感につながる。引き続き適切に保護者とのコミュニケーションをはかる。 2 「地域保育所機能の開放」:この項目については、他の項目よりC評価が多い状況にある。地域における保育園の役割を職員が認識できるようにしていく。
(4) 保育を支える組織的基盤	「健康及び安全の実施体制」、「保育計画と保育内容の自己評価」、「職員の資質向上の各項目」にc評価が一部見られた。 園として、子どもの健康と安全を最優先にした保育活動の展開、子どもを尊重する言葉がけ、子どもの目線に合わせたコミュニケーションの保持、保護者への丁寧な関わりを基本的な行動基準として一貫性を持って職員への指導をしていく。